

# 東北土を考える会 夏季研修会を開催しました

2023年8月14日

東北土を考える会は、7月27日(木)、28日(金)の二日間、岩手県一関市にあるアグリパーク舞川様のほ場に集まって夏季研修会を開催致しました。東北土を考える会会員と一般参加の生産者、農機メーカーの企業、事務局を含めて総勢80名近くが「踏圧問題 現状と課題・対策を探る ～後世につなぐ土作りとは～」をテーマに、外気温が35度を超える猛暑のなか、本当に暑い研修会となりました。

農地への踏圧は、トラクタや作業機の大型化の先進地・北海道では10年以上前から議論されてきた課題です。今回は、雪国直播サミット等で交流のあるスガノ農機技術顧問の齊藤義崇氏(元指導普及員)を招いて、作業実演の合間に解説をお願いしました。ほ場に並んだトラクタは、それぞれ作業機をリアのみ、または前後に装着した、76～170馬力の6台。トラクタと作業機を合わせた重量は4,030～9,380kg。研修会の冒頭で、耕起前とプラウ&バーチカルハロー作業後、実演した6パターンの作業後の土壌硬度を事前に計測したデータをグラフ化したものを配布し、各トラクタと作業機の踏圧が土壌にどれだけ影響を与えるのかを解説したのち、トラクタと作業機、ダブルタイヤ等の装備品について、メーカーの担当者の製品説明を頂きながら6パターンの作業を一往復ずつ実演しました。進行役の清水会長と齊藤氏による現場寄りの分かりやすいコメントは作業の目的や複合作業の意義、作業体系の組み合わせ方など幅広い内容で、参加者の方々は熱心に聞き入っていました。

実演会后、亀の井ホテル一関に場所を移動して行なわれた情報交換会では、活発に交流を深める姿が深夜まで多く見られました。ご協力いただいた関係者の皆さまのおかげで盛況のうちに無事終わることができましたことを、心より感謝申し上げます。

